

## C—8 衣服に関する衛生学的研究 (第2報)

——冬季着衣量におよぼす諸種要因の影響——

広島文化女短大 奥窪 朝子

1. 衣服衛生学的見地からの合理的な着衣のありかたを究めるための研究の一環として、冬季着衣量におよぼす諸種要因の影響を検討する。

2. 着衣量は単位体表面積当り総着衣重量ならびに肌着重量をとった。着衣量に影響をおよぼす可能性を想定してとりあげた要因は、体格(カーブ指数)、皮下脂肪厚(上腕)、耐寒性、着衣習慣、スポーツ習慣、食嗜好、C. M. I. 健康調査成績、矢田部・ギルフォード性格検査成績、出生地の気候などである。調査対象者は女子大学生254名、時期は厳寒の候である。健康状態の不良な者は集計から除外した。

3. 主観的温熱感覚としてちょうどよいと答えた者の着衣量は、体表面積  $100\text{cm}^2$  当り着衣総重量において、 $2.91\sim 10.86\text{g}$ 、変動係数  $24.0\%$ 、肌着重量において  $0.52\sim 3.36\text{g}$ 、変動係数  $31.3\%$  で、非常に大きなバラツキが認められた。

着衣総重量と有意の相関を示した要因は体格、耐寒性、着衣習慣であった。肌着重量は体格、皮下脂肪厚、着衣習慣と有意の相関を示した。

さらに着衣量として被服地の保温力をとり入れた指数をとりあげて検討する。